

都市再生整備計画 事後評価シート

うえのまち地区

令和5年1月

三重県伊賀市

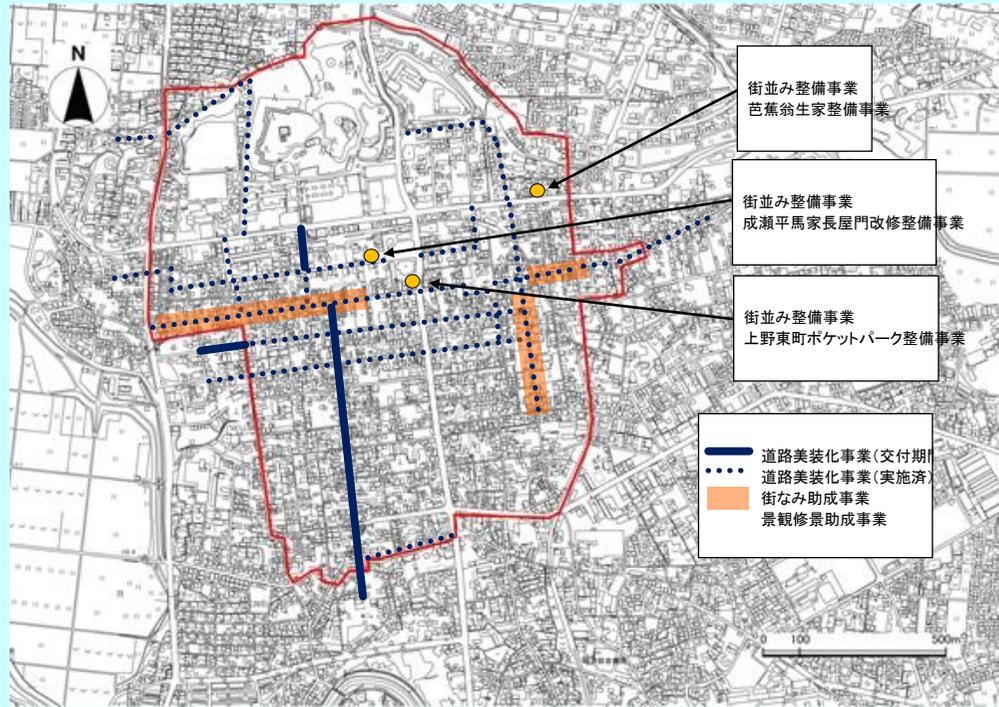
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	三重県		市町村名	伊賀市		地区名	うえのまち地区			面積	133ha	
交付期間	平成29年度～令和3年度		事後評価実施時期	令和4年度		交付対象事業費	682	国費率	50%			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名									
			基幹事業	街なみ整備事業(道路美装化、ポケットパーク、成瀬平馬家長屋門、芭蕉翁生家)、街並み整備助成事業(景観集計助成)								
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			基幹事業	市道幸坂町線道路美装化			実施箇所の変更による			なし		
	新たに追加した事業		基幹事業									
			提案事業									
交付期間の変更		当初	平成29年度～令和3年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
		変更	-									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	中心市街地のにぎわい満足度	%	67	H28	70	R3	51	×	あり なし ●	にぎわいの拠点施設整備、回遊に関する住環境整備	
	指標2	歴史、文化や風土の満足度	%	53	H28	56	R3	56	○	あり なし	歴史的街なみの保全、施設整備	
	指標3									あり なし		
	指標4									あり なし		
	指標5									あり なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1											
	その他の数値指標2											
	その他の数値指標3											
4)定性的な効果発現状況												
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	官民連携による取組		うえのまちまちづくり協議会		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●			
	持続的なまちづくり体制の構築		うえのまちまちづくり協議会		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●			

様式2-2 地区の概要

うえのまち地区(三重県伊賀市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
歴史的な街並みの保全、道路の美装化事業を行うことで住環境の向上と城下町の回遊性の向上によりにぎわいの創出を図るための中心市街地活性化の基盤づくり推進する。	中心市街地のにぎわい満足度	単位: %	67	H28	70	R3	51	R4
	歴史、文化や風土の満足度	単位: %	53	H28	56	R3	56	R4
		単位:		H		R		R
		単位:		H		R		R
		単位:		H		R		R



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 市民との協働で作成した「うえのまちまちづくり計画」を基とし、平成20年度から取り組んできた「街なみ環境整備事業」は、計画的に事業を進め令和3年度末で完了となった。 住環境を中心にハード整備が整ったことにより、点から線へ、線から面へにぎわいの拡大が今後取り組むべき課題となっている。 当初整備した施設の補修が必要となっている。計画的な維持管理が必要。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 整備された施設を活用し、まちめぐりを促すイベントの実施の充実を図る 公民連携による取組の充実、新設 多様な運営主体、人材育成 整備された施設の計画的な維持管理

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

添付様式3-① モニタリングの実施状況

添付様式3-② 官民連携による取組みの実施状況

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

添付様式5-② まちの課題の変化

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
街なみ環境整備事業	市道農人町八幡町線道路美装化	185	L=712m	185	L=712m	なし		●	
街なみ環境整備事業	市道愛宕町恵美須町選道路美装化	53	L=260m	53	L=260m	なし		●	
街なみ環境整備事業	市道丸之内久米線道路美装化	24	L=100m	24	L=100m	なし		●	
街なみ環境整備事業	市道小田西明寺線道路美装化	45	L=120m	45	L=120m	なし		●	
街なみ環境整備事業	市道愛宕神社線道路美装化	8	L=100m	8	L=100m	なし		●	
街なみ環境整備事業	市道幸坂町線道路美装化	37	L=180m	0	L=0m	平成28年度に計画変更により事業中止	影響なし	●	
街なみ環境整備事業	成瀬平馬家長屋門保存修理	47		109		文化財としての設計、工法見直し(半解体)により事業費増加	影響なし	●	
街なみ環境整備事業	上野東町ポケットパーク	10		90		小公園に利用者ニーズによるトイレ整備を追加したことにより事業費増加	影響なし	●	
街なみ環境整備事業	芭蕉翁生家保存改修	115		162			影響なし	●	
街なみ環境整備事業	修景施設整備	52	30戸	6	8戸	事業周知を図ったが、制度利用が少なかったため事業費、内容減少	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度		基準年度		目標年度						あり	なし		
指標1	中心市街地のにぎわい満足度	%	市民アンケート(令和4年8月、郵送、施設利用者に対して実施)			67	H28	70	R3	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定見込み ●	51	事後評価	×		
指標2	歴史、文化や風土の満足度	%	市民アンケート(令和4年8月、郵送、施設利用者に対して実施)			53	H28	56	R3	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	56	事後評価	○		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	平成20年度から取り組む伊賀市中心市街地活性化基本計画に基づき、都市再生整備計画事業として住環境整備を中心に一定の成果を得たが、平成31年1月の市役所本庁舎の移転、コロナ禍の影響により「活性化に対する満足度」という指標において達成に至らなかった。	定性的な指標を評価するにあたり、にぎわい、活性化などの定義が曖昧であり、都市再生整備計画事業の成果に対する満足度と、アンケート実施時の社会情勢や他の事業を含めた中心市街地活性化に対する総花的な評価となった。
指標2	市役所移転の際、市街地のまちづくり方針として打ち出した歴史や文化、観光エリアの位置付けのもと、都市再生整備計画事業により文化財施設の保存改修、各施設への誘導を促す動線の整備等を実施したことにより、満足度が高まった。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
 ※2 目標達成度の記入方法
 ○: 評価値が目標値を上回った場合
 △: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
 ×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

中心市街地のにぎわい創出に向けては、平成20年度～26年度まで実施した第1期伊賀市中心市街地活性化基本計画を引き継いだ形で令和2年度から第2期伊賀市中心市街地活性化基本計画(市独自計画)を策定し、官民が一体となった活性化の取り組みを進めている。
 うえのまち地区において毎年夏に実施している「ライトアップイベントお城のまわり」では、都市再生整備計画事業で改修等を行った文化財施設をはじめ、既存の文化的施設をライトアップし、伊賀の魅力を発信、再確認する取り組みが平成28年度から実施され、回を重ねるごとに来場者を伸ばしている。(新型コロナウイルスの影響により令和2年度、3年度は開催中止)

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
うえのまちまちづくり協議会	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 平成28年度/3回、平成29年度/2回、平成30年度/4回、平成31(令和元)年度/3回、令和2年度/3回、令和3年度/3回 協議会総会、定例会等においてまちづくり計画の進捗確認、新規事業の検討等を実施。	令和3年度末をもって交付金を受けて実施する事業は完了となったが、整備した施設を活用した回遊の取り組みや情報発信に関する取り組みの実施を継続する。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
うえのまちまちづくり協議会	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 毎年定例会議を開催するとともに、計画事業の進捗確認、新たな取り組みの検討を行う。	うえのまちまちづくり協議会	令和3年度末をもって交付金を受けて実施する事業は完了となったが、整備した施設を活用した回遊の取り組みや情報発信に関する取り組みの実施を継続する。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内ヒアリング	伊賀市建設部都市計画課 伊賀市建設部道路河川課 伊賀市企画振興部文化振興課 伊賀市教育委員会文化財課 伊賀市産業振興部中心市街地推進課	令和4年9月	中心市街地推進課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標○		指標○		指標○	
指標名		歴史、文化や風土に関する満足度							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	市道農人町八幡町線道路美装化	○	上野城下町のまちなみにおいて、文化財施設を中心に保全、改修を実施したことに伴い、これらを繋ぐ動線となる道路美装化、民間所有の建物、構築物に対する修景助成等により総合的に街なみ整備が整ったことにより、満足度が高まった。						
	市道愛宕町恵美須町選道路美装化	○							
	市道丸之内久米線道路美装化	○							
	市道小田西明寺線道路美装化	○							
	市道愛宕神社線道路美装化	○							
	市道幸坂町線道路美装化(計画変更により中止)	○							
	成瀬平馬家長屋門保存修理	◎							
	上野東町ポケットパーク	○							
芭蕉翁生家保存改修	◎								
修景施設整備	◎								
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ー：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	整備された施設の活用、回遊の仕掛けづくり等に取り組み、回遊促進を図る。				
-------	-------------------------------------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標○			指標○			指標○			
指標名		中心市街地のにぎわい満足度												
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	
基幹事業	市道農人町八幡町線道路美装化	△	施設、住環境の整備を中心に事業を実施したが、これらを活用したソフト面の取り組みの不足に加え、コロナ禍等社会情勢の影響により目標の達成に至らなかった。	Ⅲ										
	市道愛宕町恵美須町選道路美装化	△												
	市道丸之内久米線道路美装化	△												
	市道小田西明寺線道路美装化	△												
	市道愛宕神社線道路美装化	△												
	市道幸坂町線道路美装化(計画変更により中止)													
	成瀬平馬家長屋門保存修理	△												
	上野東町ポケットパーク	△												
	芭蕉翁生家保存改修	△												
	修景施設整備	△												
提案事業														
関連事業														

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	市、関係団体、市民等の協働により整備した施設を活用したイベントの実施や回遊ルートの創出などに取り組んでいく。				
------------------	--	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
全庁照会、ヒアリング	伊賀市全庁	令和4年10月	中心市街地推進課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
歴史的な街並みの保全	文化財施設の保存、改修及び民間所有建物、構築物の集計等が整い、単一施設ではなく、街なみとしての整備が進んだ。	さらなる街なみ整備に向けた修景助成制度の周知及び空き家、空き店舗の後継者不足による街なみが崩れることを抑制するための空き家・空き店舗対策。	
回遊性の向上、にぎわいの創出	回遊促進の拠点となる施設の整備が進んだ。	既存施設を含め、各施設を回遊するソフト事業の実施や、地域、商店街等との連携による公民が連携したイベントの実施。	
中心市街地活性化の基盤づくり	平成20年度から取り組んできた中心市街地活性化の取り組みにより、行政による基盤整備に一定の成果があった。	ハード面の整備に一定の成果を得たが、活性化の基盤となるソフト事業、人材の発掘、育成が求められる。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	整備した施設の利活用促進、維持管理	整備した施設が市民、観光客等に利用いただけるよう利用促進に係る情報発信を行うとともに、継続して利用いただけるよう適切な維持管理を行う。	市ホームページ、SNS等による情報発信 指定管理者制度の導入等による維持管理
	活性化の基盤づくりに向けた検討組織の継続、拡充	各施設の利活用促進を図るための検討には、市民や関係団体の参画が不可欠であるため、公民連携で検討を行う。	うえのまちまちづくり協議会 中心市街地活性化協議会 株式会社まちづくり伊賀上野 等との連携による検討

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	活性化の基盤づくりに向けた検討組織の継続、拡充	各施設の利活用促進を図るための検討には、市民や関係団体の参画が不可欠であるため、公民連携で検討を行う。	うえのまちまちづくり協議会 中心市街地活性化協議会 株式会社まちづくり伊賀上野 等との連携による検討
	施設の維持管理	整備した施設を適切に維持管理し、計画的に修繕、更新することで、持続可能なまちづくりを目指す。	施設の維持管理
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度				あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	中心市街地のにぎわい満足度	%	67	H28	70	R3	確定 ●	51	×	あり	●			
							見込み			なし				
指標2	歴史、文化や風土の満足度	%	53	H28	56	R3	確定 ●	56	○	あり	●			
							見込み			なし				
指標3				H		H	確定			あり				
							見込み			なし				
指標4				H		H	確定			あり				
							見込み			なし				
指標5				H		H	確定			あり				
							見込み			なし				
その他の数値指標1				H		/	確定			/				
							見込み			/				
その他の数値指標2				H		/	確定			/				
							見込み			/				
その他の数値指標3				H		/	確定			/				
							見込み			/				

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標・成果の達成	うまくいった点	上野城下町の歴史的景観、街なみを保全するにあたり、市内の他地区との差別化を明確に打ち出すことにより、うえのまち地区のまちづくりの方向性と、満足度が合致し、数値が向上した。	指標の設定にあたっては、定量的、定性的の双方から検討し、事後評価を見越して設定する必要がある。
	うまくいかなかった点	中心市街地の活性化という曖昧かつ定義が不明瞭な指標を設定したことにより、都市再生整備計画事業による中心市街地活性化の効果に限定した数値を測定することができなかった。	
数値目標と目標・事業との整合性等	うまくいった点	歴史、文化を大切にすうえのまち地区のまちづくりの方針と、城下町で生活や商売等をする地域住民とのニーズが一致し、満足度が向上した。	
	うまくいかなかった点	中心市街地の活性化という曖昧かつ定義が不明瞭な指標を設定したことにより、都市再生整備計画事業による中心市街地活性化の効果に限定した数値を測定することができなかった。	
住民参加・情報公開	うまくいった点	地域住民を中心に構成されるうえのまちまちづくり協議会において、市との協働で作成されたまちづくり計画がベースとなっていることで、施設整備のニーズを事業に反映させることができた。	整備した施設の維持管理と、今後新規に取り組む施設整備を含め、公民が連携したソフト事業の取り組みを進める必要がある。
	うまくいかなかった点	街づくり計画策定当初の課題としてハード整備があったこともあり、ハード整備中心の事業実施となり、ソフト面の取り組みを並行して検討、実施することができなかった。	
PDCAによる事業・評価の進め方	うまくいった点		計画期間が長期化するほど、適切な事前評価とともに中間評価による計画自体の時点修正等が必要となる。
	うまくいかなかった点	都市再生整備計画の期間中の中間評価を計画していなかったことにより、コロナ禍による指標達成状況に向けた数値の推移を予測し、これに対する数値の修正や達成に向けた取り組みができなかった。	
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

PF手法により進めている「にぎわい忍路回廊事業」について、施設整備及び周辺整備について都市再生整備計画事業の活用を検討している。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和4年12月1日～12月31日	令和4年12月1日～12月31日	担当課への電話、ファックス、メール等	中心市街地推進課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ	うえのまちまちづくり協議会定例会	令和4年11月8日	令和4年11月8日		
その他					

住民の意見					
-------	--	--	--	--	--

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
伊賀市都市計画審議会 (岡山委員、浦山委員、上田委員、田中委員、森中委員、松並委員、木下委員、前田委員、菊山委員、石山委員、荻田委員)	令和4年10月4日	都市計画課
うえのまちまちづくり協議会 (菊野氏、山本氏、家喜氏、滝井氏、松井氏、矢倉氏)	令和4年11月8日	中心市街地推進課

有識者の意見	<ul style="list-style-type: none">・事前評価から最長5年が経過した段階で事後評価を行うことから、中間時点の報告等を検討されたい・指標の設定にあたっては、定性的な指標以外に定量的な指標の検討もされたい・計画策定に比べて、事業期間後半、事後評価のプロセスに対する住民参画度が低かった・環境整備に一定の成果があったが、完成した施設の維持管理、新たな施設整備を継続されたい・事業エリアにおける回遊促進のポイントとなる施設の完成を契機に、ソフト面の取り組みを強化されたい
--------	---